

僚や上司と言った職場の仲間ではなく、住民という回答が最も多かったことは、公務職場において対住民サービスという面では同じですが、この病院職場では顕著となっています。

## 「職場の人や市民で職員を傷つける怖い人が増えている」

ただでさえ、同じ時間数を働いていても、三交代による不規則な勤務実態、休日でも拘束されている緊張感、そして労働密度や責任が増大している中、「職場の人や市民でこちら（職員）を傷つける怖い人が増えている」という回答が多かったことは看過することができません。病気になる人、怪我をした人、そして心の病を持った多くの住民が行く病院。その職場で働く職員自身が、このような状況にさらされていることは、大きな問題です。それでもなお、そういう不安やストレスを隠しながら、自分を殺しながら、笑顔で接してくれる、接しなければならぬ職場環境に対して、改善が急がれるところです。

そのためには、何よりも人員を充実させることが、環境的にも時間的にも、そして住民や患者に対する一番のケアだと思います。

## 健康で、笑顔で、定年まで働き続けられる職場づくりを

労働運動、組合活動の中で、賃金・労働条件の改善がこの間の一番の要求・目的でした。しかし、この間の自治体財政のひっ迫や公務員バッシング、総人件費抑制の中で、最近では、賃金アップを望む声よりも、人員要求・職場環境の完全減や休暇・代休の取得、業務量のアンバランスや見直しといった声が多く聞かれるようになってきました。

何よりも、「健康で、笑顔で、定年まで働き続けられる職場づくり」を、これからの厳しい時代において一番の重要課題にして取り組んでいく必要があると思います。

